

集落環境診断

集落環境診断とは

集落単位の総合的な獣害対策戦略づくりを住民参加で行う方法です。集落環境診断では、現地の被害状況の把握や被害原因の分析から、対策の立案、対策の効果検証までを行います。

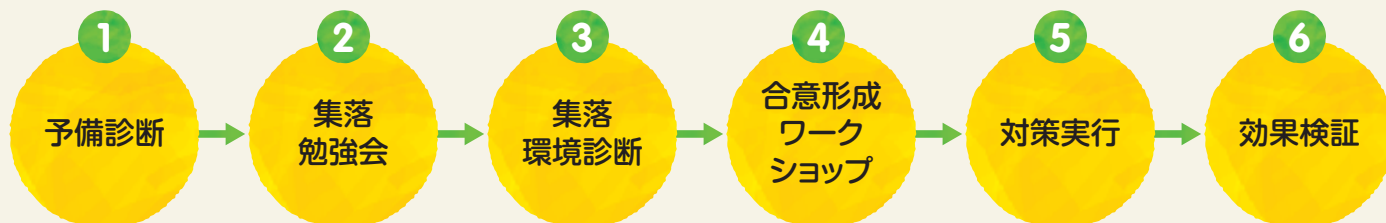
集落環境診断の流れ

現地を専門家と歩きながら鳥獣に狙われているポイントを調べ、住民参加のワークショップで対策を決定します。ワークショップでは参加者同士の対話を重視し、住民ぐるみの獣害対策を進めていきます。ワークショップで決めた対策を実施した後は、翌年に検証ワークショップで効果を検証し、より良い対策へと改善していくことが重要です。検証ワークショップを複数年繰り返し、PDCAサイクルを回し続けることで対策の効果が上がっていきます。



診断は
なぜ必要？

被害対策を立てる際に診断を行うことで、行政担当者・住民・有識者など、その土地や現地のことを知っている人とあまり知らない人との**共通認識**ができます。そうすることで一体感が生まれ、より効果的な対策ができます。



2018年度の実施実績



集落環境診断の位置づけ

例) 医療行為…医師が行う



鳥獣被害対策…鳥獣被害対策指導者が行う



集落環境診断

株式会社ういるこ

〒940-2127 新潟県長岡市新産4丁目1-10 NARIC 201号室

☎ 0258-86-0880 📠 0258-86-1780 ✉ info@wilco.company



集落環境診断 各STEP

STEP 1

予備診断

住民数名、行政担当者、
専門家と一緒に現地を
回り、集落の状況把握、
コース設定を行います。
(昼間3時間)



まずは行政担当者と専門家が
集落の状況を知ることが重要です。
また、限られた時間で
集落を調査するためには、
対策上のポイントを押さえた
コース設定も大切です。

平日
1日

STEP 2

集落勉強会

住民が正しい鳥獣被害
対策の知識を共有して
からすべての事業を始
めます。
(夜2時間程度)



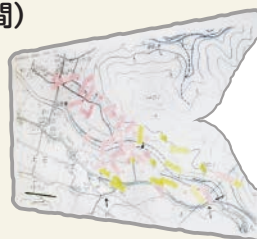
鳥獣被害対策は「順番」と
「バランス」が重要です。
正しい知識がないままに始めてしまうと、
被害を減らすことができないリスクがあります。
集落の住民が正しい知識をもっていることが、
集落環境診断を成功させる前提です。

STEP 3

集落環境診断

午前 集落診断についての講義 (1時間)
集落環境調査 (2時間)

午後 集落地図作成 (1.5時間)
診断ワークショップ (1.5時間)
発表・講評 (1時間)



チェックリストを利用しながら
被害地・被害動物の把握・
被害集落の環境調査を実施します。
そこから得た情報を
地図にして可視化します。

休日
1日

STEP 4

合意形成ワークショップ

具体的に来年度実施す
る対策を決める最終ワ
ークショップを行います。
(夜2時間)



調査結果の地図を見ながら
ワークショップを行い、
実際に行う対策に
優先順位をつけます。

平日
数時間

STEP 5

対策実行

決めた対策を実行しま
す。その際に評価デー
タも一緒に取ります。

STEP 6

効果検証

実行した対策を評価し、
今後の対策立案につな
げます。

獣害対策は防護柵や捕獲罠を導入して 終わりではありません

柵や罠は獣害対策を理解した住民が正しく使って初めて効果が現れます。

住民の理解や行動を変えるためには、住民自身が集落の現状を足で調べ、それを他の住民と共有して、皆で対策を考える必要があります。

この集落環境診断の行程は、弊社が試行錯誤を重ねて作りあげた、住民主体の取り組みを促すための「必要不可欠かつ最も効率的なメソッド」です。